

風しん追加的対策の実施方法について

【実施方法】

- ① 抗体検査の受検目標の達成に計画的に取り組むため、3か年計画で、段階的に行う。

※ 事業開始当初に受検希望者が集中した場合、短期的な供給不足が生じ、医療機関や対象者に混乱が生じる懸念がある。

- ② 1年目（～2020年3月）は、まずは昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生まれ（約646万人）の男性に対して、市町村から受診券を送付する。

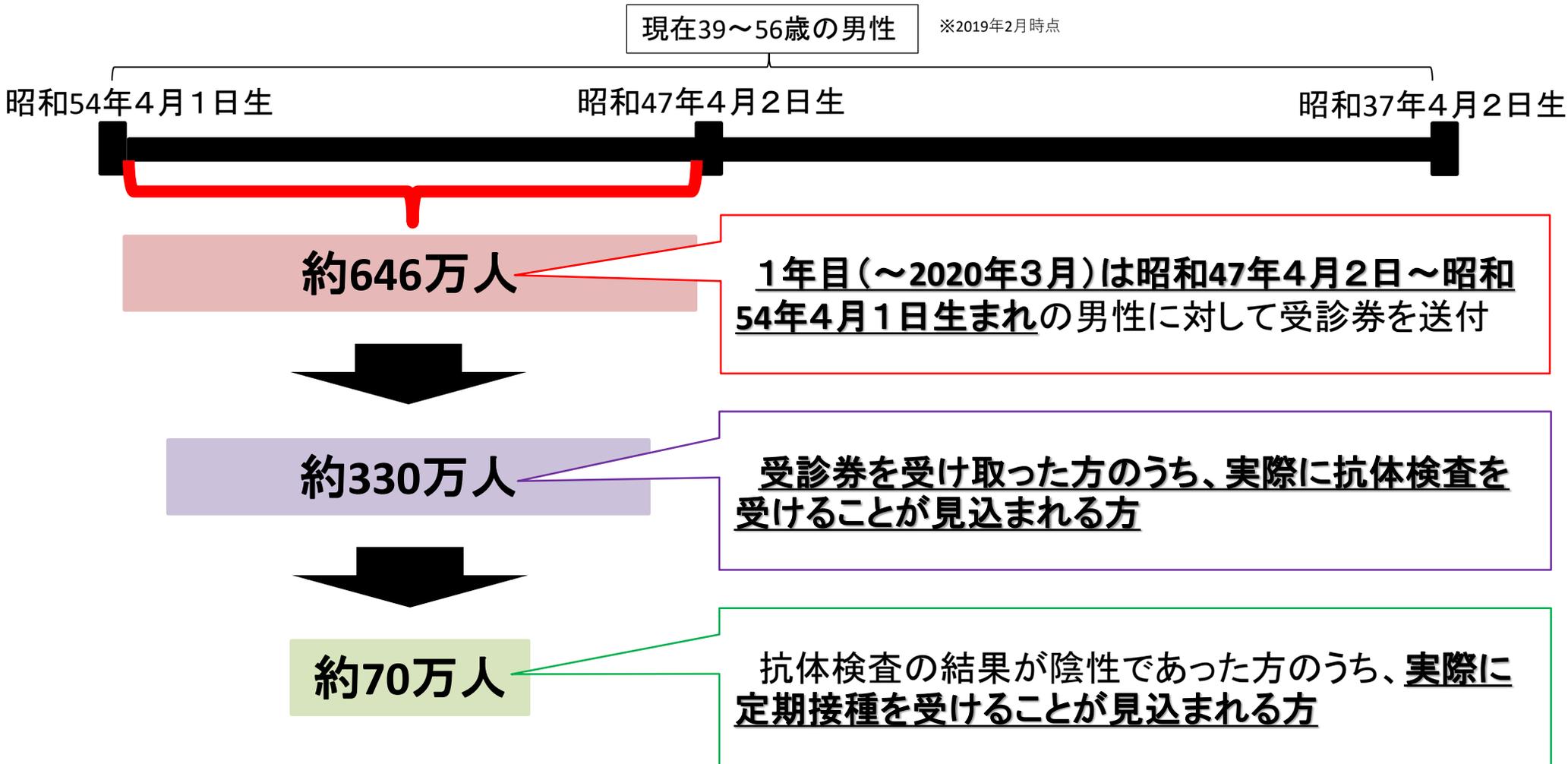
（参考）対象世代の選定の考え方

追加的対策の対象で現在39歳から56歳（昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれ）の中でも、若い年齢の方ほど患者数が多く、特に現在39～45歳（昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生まれ）（約646万人）の男性の患者数が対象世代の患者数の半数以上を占める。

- ③ なお、1年目に市町村から受診券を送付しない昭和37年4月2日～昭和47年4月1日生まれの男性についても、市町村に希望すれば、受診券を発行し抗体検査を受検できることとする。

風しん追加的対策の実施方法について

【初年度(2019年度)における取組】



2020年4月以降に更に対策を進めることにより、2020年7月までに抗体保有率85%の目標達成を目指す。